

## 植考書屋と黒川文庫

— 考証家の本を中心に —

吉川 澄美

東京都

黒川文庫は国学者の春村(1799-1866)、真頼(1829-1906)、真道(1866-1925)の3代にわたる蒐書で関東大震災の被害を受けて蔵書整理が行われた結果散逸した。そのうち医書や本草・博物書を含む「本草」に類別される多くは、早川佐七(1885-不詳)の植考書屋を經由して武田科学振興財団杏雨書屋に所蔵されることを前年の大会で報告した。これらの中には真頼と真道が『古事類苑』『日本教育文庫・衛生文庫』などの書籍編纂事業に従事した際に使われたものが含まれる。また、春村が狩谷掖斎に師事したことも多少関係あろうか、考証家が係わった写本や校正本もその蔵書に見られる。もとより江戸時代後期の考証的営為が垣間見られる書籍を所蔵する文庫も少なくない中、黒川文庫以外の植考書屋も例外ではない。そこで、早川氏旧蔵本のこれまでの調査において見いだせたものを以下に挙げてみる。

### ①多紀元簡(1755-1810)・元胤(1789-1827)・元堅(1795-1857)

『扁倉伝彙考』(写)(杏2479)多紀元簡自筆稿本、『屠蘇名義考』(写)(杏2035・黒川本)多紀元簡自筆稿本、『葉雅』(写)(杏1203)多紀元胤(紹翁)著、『有林福田方』(刊)(杏635・黒川本)「多紀氏蔵書印」、『神農本草経百種録』(徐大椿撰)(刊)(杏577)「多紀氏躋寿館」「松村文庫」、『本草和名』(杏210・黒川本)多紀元簡聿修堂発行、『葉性提要』(杏1631)多紀元堅著、『和名鈔』(杏4169・黒川本)岡正武案多紀氏蔵写本による、『医略抄』(刊)(杏1040・黒川本)多紀元簡校注、『備急千金要方』(刊)(貴419)多紀元堅撰など。

### ②狩谷掖斎(1755-1835)

『本草和名考異』狩谷掖斎著(写)(杏1605)岡本保孝写本、『葉種抄』(写)(杏861)狩谷掖斎写本による。

### ③岡本保孝(1749-1817)

前掲のほか『本草沿革』岡本保孝著(写)(杏6233)。

### ④伊沢蘭軒(1777-1829)

『柴木考』(写)(杏1285・黒川本)「伊沢氏酌源堂図書記」伊沢蘭軒自筆稿本、『蝮川秘書』(杏4052・黒川本)片倉鶴陵筆「伊沢氏酌源堂図書記」、『名物摭古小識』(刊)(杏6511)三浦義徳(蘭阪)著「伊沢文庫」「森氏開萬冊府之記」「松村文庫」。

### ⑤小島尚質(1797-1849)・尚真(1829-1857)・尚綱(1839-1880)

『本草経薬和名考』(写)(杏6253・黒川本)「小島氏図書記」「森立之旧蔵本」、『医療襍譚』(写)(杏4683・黒川本)「小島氏図書記」小島瞻淇(尚綱)自筆写本。

### ⑥喜多村直寛(1804-1876)

『灌園草木識』(写)(杏683)「喜多村氏蔵書之印」、『庶物類纂』(写)(杏6846)喜多村直寛の手写本含む、『本草綱目目録校註』(写)(杏6342)「喜多村氏蔵書之印」、『勸農叢書養蚕秘録』(刊)(研1331)「喜多村氏蔵書之印」「松村文庫」、『越俎薬誌』(刊)(杏3326)喜多村直寛著「森氏」「松村文庫」。

### ⑦渋江抽斎(1805-1858)

『物産書』(写)(杏2065)「弘前医官渋江氏蔵書記」。

### ⑧森立之(1807-1885)・約之(1835-1871)

前掲のほか、『神農本草経三卷考異』森立之編併増録(刊)(貴227・黒川本)、『医心方』札記森立之(刊)(貴30・黒川本)「養安院蔵書」、『秘伝花鏡会識』(写)(杏1538)「森氏開萬冊府之記」森沢園跋語。約之の手写によるのは『魚族御尋之儀答書』(杏1348)、『古今注』(杏3465)、『陳振先葉草功能書』(杏3959)。ほかに「森氏」印があるのは『西海鯨魚記』(写)(杏3793)、『蟹譜』(刊)(杏1322)など。

これらのうち、武田信郷編による江戸時代前～中期の医療関係の雑録『医療襍譚』、文明10年代前半(1478-1487)の日付が見える医療記録や処方、生薬の覚書を含む『蝮川秘書』などを中心に紹介する。